Design Lecture

Design Innovation Consortium　DESIGN SCHOOL KYOTO UNIVERSITY

デザインレクチャー

Design Lecture 2018 SeasonⅡ

～ 予測不可能な世界を生き抜くための企画・デザインの発想を学ぶ ～

京都大学デザインスクールで実際に行われている講義を中心に、企業向けに再編した レクチャーシリーズを開催します。予測不可能な時代（VUCA*）と言われる現在、異質なナレッジ、真の課題発見、解決策のデザイン力が必要とされています。そのためには、異分野の知見を学び、それぞれの分野で培われたデザイン理論・手法を理解し、その礎を築くことが大切です。
本プログラムは、京都大学デザインスクールの教員が、各分野のデザイン理論・手法を説く集中シリーズで、シリーズ全体を通しての受講をお勧めします。今年度は前期に Season Ⅰ を開催しました。後期には Season Ⅱ を開催します。

*VUCA: Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）

第1回　情報のデザイン
「情報を効果的に伝えるための方法論」

京都大学大学院 情報学研究科
教授
黒橋 禎夫
Sadao Kurohashi

京都大学大学院 情報学研究科
助教
山本 岳洋
Takehiro Yamamoto

10/19［金］15:00–18:00

第2回　フィールド分析法
「エスノメソドロジーと人間行動のデザイン」

京都大学 経営管理大学院
特定講師
平本 毅
Takeshi Hiramoto

12/12［水］15:00–18:00

第3回　防災のデザイン
「防災デザインの方法論」

京都大学 防災研究所
教授
牧 紀男
Norio Maki

1/25［金］15:00–18:00

第4回　心理とデザイン
「なつかしい記憶による幸福観と社会的絆」

京都大学大学院 教育学研究科
教授
楠見 孝
Takashi Kusumi

3/1［金］15:00–18:00

デザインレクチャー 2018　SeasonⅡ

主　　催：デザインイノベーションコンソーシアム
後　　援：京都大学デザイン学大学院連携プログラム
対　　象：コンソーシアム会員、非会員
会　　場：京都リサーチパーク
定　　員：40 名程度（定員になり次第〆切）

［問合せ］デザインイノベーションコンソーシアム　事務局
京都リサーチパーク株式会社　松浦、柳本
メール：info@designinnovation.jp　TEL：075-315-8522

参 加 費：会員　無料
非会員　5,000 円 /1 回
申　　込：事前申し込み要　下記 URL よりお申込みください
http://designinnovation.jp/topics/2018/08/dl-season2.html

申込〆切：第 1 回〆切　2018 年 10 月 12 日［金］
第 2 回〆切　2018 年 12 月　5 日［水］
第 3 回〆切　2019 年　1 月 18 日［金］
第 4 回〆切　2019 年　2 月 22 日［金］

QR コードより詳細ページへアクセスいただけます。

第1回 情報のデザイン

「情報を効果的に伝えるための方法論」

ことば，グラフィック，コンピュータといったメディアにかかわらず，情報を人に伝える行為は普遍的である．どんなに価値ある情報も，それが人に正しく伝わらなければ意味がない．本講義では，情報デザインを「伝えたい情報を対象者に的確，効果的に伝えるための規範・方法論」と捉え，情報デザインに関わる諸概念について事例を交えながら紹介する．前半では，情報の分類，組織化，言語の視点からの情報デザイン等について議論を行う．後半では，コンピュータにおけるインタフェースデザインを題材とし，使いやすさや信憑性といった人の認知的特性について議論する．

参考図書：田中克己，黒橋禎夫（編）『情報デザイン（京都大学デザインスクール・テキストシリーズ）』共立出版，2018.

黒橋 禎夫 / 京都大学大学院情報学研究科 教授

1994 年京都大学大学院工学研究科電気工学第二専攻博士課程修了．博士（工学）．2006 年 4 月より京都大学大学院情報学研究科教授．自然言語処理，知識情報処理の研究に従事．2016 年より JST さきがけ「新しい社会システムデザインに向けた情報基盤技術の創出」研究総括．言語処理学会 10 周年記念論文賞，同 20 周年記念論文賞，文部科学大臣表彰科学技術賞等を受賞．2014 年より日本学術会議連携会員．

山本 岳洋 / 京都大学大学院情報学研究科 助教

2011 年京都大学大学院情報学研究科博士課程修了。博士（情報学）。2014 年 8 月より京都大学大学院情報学研究科助教。専門は情報検索、特に情報検索におけるユーザインタラクションやユーザ行動理解に関する研究。近年では、新しい社会における情報アクセス技術のあり方に興味を持ち研究に従事。2011 年度、2012 年度情報処理学会コンピュータサイエンス領域奨励賞を受賞。

第3回 防災のデザイン

「防災デザインの方法論」

昨年は九州北部豪雨、今年は西日本豪雨といった気象災害が頻発し、さらに南海トラフ地震や首都直下地震の発生が懸念されており、災害に対して如何にして備えるのかは重要な課題となっています。命、財産、生活・業務・地域を守るという防災の目標、被害の定義、防災対策の全体像といった防災対策の基本的枠組みについて理解した上で、目標設定・組織の立ち上げ→リスクの同定→リスクの分析→リスクの評価→リスクの対策という防災のデザイン手法についてハザードマップの作製、災害対策本部の空間設計、防災・復興計画の策定災害情報システムの基本要件設定といった実際の防災デザイン事例をもとに学びます。

牧 紀男 / 京都大学防災研究所 教授

京都大学防災研究所 都市防災計画分野 教授、博士（工学）理化学研究所／防災科学技術研究所地震防災フロンティア研究センター研究員、京都大学防災研究所准教授を経て2014 年より現職。専門は防災計画、災害復興計画、危機管理システム。数多くの自治体の地域防災計画策定にたずさわると共に、被災地における自治体支援活動を行っている。著書「復興の防災計画」「災害の住宅誌」（鹿島出版会）、「組織の危機管理入門―リスクにどう立ち向えばいいのか（京大人気講義シリーズ）」（丸善）他

Time Table

15:00	15:05	16:20	16:35	17:50	18:00
イントロダクション	講義（前半75分）	休憩	講義（後半75分）	まとめ お知らせ	終了

※変更する場合がございます。

第2回 フィールド分析法

「エスノメソドロジーと人間行動のデザイン」

ほとんどのデザインが有効であるのは、それが自然な人間行動の中に埋め込まれた時である。だから、「自然な人間行動とは何か」を調べることは、デザイン実践と研究にとって大きな意味をもつ。この問題に、人同士のコミュニケーション（たとえば小売店の接客）という側面から取り組んできたのが、「エスノメソドロジー」と呼ばれる社会学の方法である。エスノメソドロジーは実際のコミュニケーションを観察し、人がその場で自然に行動する条件を明らかにする。このレクチャーではエスノメソドロジーの考え方と具体的な接客場面の分析例を紹介しつつ、分析によって明らかにした自然な人間行動に基づいたサービスデザインについて議論する。

平本 毅 / 京都大学経営管理大学院 特定講師

京都大学経営管理大学院特定講師。立命館大学大学院社会学研究科博士課程後期課程修了。博士（社会学）。専門はエスノメソドロジー・会話分析。近年はクリーニング屋、江戸前鮨屋、ハンバーガー屋、寝具店などの小売店の接客場面の分析に従事しており、その分析に基づいたサービスの理解と、サービスデザインの実践とのかかわりを研究している。主な編著書に、『会話分析入門』勁草書房、『会話分析の広がり』ひつじ書房ほか。

第4回 心理とデザイン

「なつかしい記憶による幸福観と社会的絆」

なつかしい記憶は，現在から過去へのメンタルトラベルによって，他者との絆や場所とのつながりを想起させ，幸福観やあますっぱい気持ちを引き起こす。本レクチャーでは，人の記憶の想起とそれに伴う感情のメカニズムを，心理学実験と調査，そして理論に基づいて解説する。さらに，なつかしさを活用するための，記憶支援装置のデザイン，広告やまちづくりのデザイン，作品舞台の旅「聖地巡礼」，回想法による高齢者の支援の問題を考えたい。

参考図書・URL
楠見 孝（編）(2014)『なつかしさの心理学：思い出と感情』誠信書房
http://cogpsy.educ.kyoto-u.ac.jp/personal/Kusumi/nostalgia.htm

楠見 孝 / 京都大学大学院教育学研究科 教授

学習院大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学、博士（心理学）。筑波大学講師、東京工業大学助教授などを経て、1999 年京都大学教育学研究科助教授、2008 年より同教授。この間、1997-1998 年米国 UCSC・UCLA 客員研究員。専門は、認知心理学、とくに、記憶，暗黙知、比喩理解などに関する研究。主な編著書に、『実践知：エキスパートの知性』有斐閣、『ワードマップ 批判的思考』新曜社ほか。

point

- ☑ それぞれの専門分野における問題の捉え方や解決策のデザイン方法がわかります。
- ☑ 自らの分野・業界の発想や問題の解決方法は限定的であり、バイアスがあると気付きます。
- ☑ どの分野のメンバーでプロジェクトチームを構成すれば、真の問題発見や望ましい解決策のデザインが可能となるか、計画できるようになります。